

いなば泰子 ニュース



第21号2004年8月

発行 日本共産党岡山市議団

〒700-8544 岡山市大供1-1-1

岡山市役所内

TEL (086)803-1000

内線 4370・4371

FAX 234-9388 (直通)



条を守ろうと訴えました。

私は毎年、東京から広島へ向かう平和行進に参加しています。今年は七月十九日に岡山県庁から岡山市役所に向かうコースを歩きました。イラクの戦場に自衛隊が派遣されている今日ほど、平和を願う人々がその思いを行動に移す意義が大きい時はないでしょう。暑い街を一步一步踏みしめて歩き、市民に憲法九

**多彩な平和の
取り組みがありました**
戦争から五十九年目の夏を迎えました。空襲を経験している岡山では今年も平和を願って多彩なイベント、演劇、歌、写真展、映画等々が繰り広げられました。



原水爆禁止世界大会に参加

八月五・六日は原水禁世界大会に参加し広島で過ごしました。

大会のフォーラムでは「政府・

NGOとの対話」に参加しました。政府代表としてはエジプト外務次官・マレーシア駐オーストラリア大使・メキシコ軍縮大使、NGOとしては日本はもちろんイタリヤ・キューバが発言しました。

共通しているのは、「軍縮のための行動を」という呼びかけでした。世界の大半は軍縮の方向に進もうという意気込みであることが身にしみて感じられたフォーラムでした。千五百人は参加していると思われる会場では何回も拍手が起りました。

稲葉 泰子

平和公園でも様々な取り組み

平和公園では、碑ごとに折鶴の山がありました。それらを中学生や高校生の集団、被爆者の語り部に集まっている人、子ども連れの家族などが見ていました。

「父をかえせ、母をかえせ」の峠三吉の詩と共に写真展が行われていたり、原爆ドームの下で高校生が「署名をお願いします」と道ゆく人に声をかけていたりしました。高校生の行動に頼もしさを感じました。

世界へ憲法九条を伝えよう

閉会の記念式典での広島市長の挨拶では日本には憲法九条を世界に広めていく役割があることが述べられ、来年の六十周年に向けて被爆者の声を世界の子どもに発信する行動が提起されました。

岡山からも平和の情報発信を

この提起に心えるためにも岡山市平和資料館を一刻も早く作ることが求められるのではないでしうか。



憲法九条の改悪に反対します。
イラクの自衛隊撤退を
求めます！

今後のスケジュール

- 8月17日(火) 知事選挙候補者発表(革新県政をつくる会)
- 21日(土) ガレッジセール
- 28日(土) 県知事予定候補者を励ます会
- 29日(日) 岡山市主催防災訓練
- 9月 2日(木) 市議団と民主団体懇談会
- 5日(日) 県知事戦事務所開き
- 6日(月) 法律・生活相談
- 12日(日) 岡山63万市民のつどい
- 13日(月) 9月議会開会

この一冊

「民話」を子どもに読んでやると、とてもおもしろがります。方言で直接、語ってやると子どもの心に「やさしい芽」が育ちます。

このたび、新聞やテレビでおなじみの民話の語りべ立石憲利さん(総社市在住)が、久留島武彦賞受賞を記念して『立石おじさんのおかやま昔話』を出版されました。表紙と挿絵(切り絵)は、祇園在住の江草昭治さんです。

一つの話を読めることが2分3分です。夏休み、おとなと子どものふれ合いの機会を与えてくれる一冊です。(吉備人出版・1050円)



記者会見する中国残留孤児岡山原告

敗戦直前、旧「満州」に居住していた日本人が日本に引き揚げるとき置いていった子どもたちがいました。この人たちに対して、早期の帰国実現や帰国後の自立支援を怠った国の責任を問う裁判が全国で行われています。(本紙15号に記事)

この日、二人の方の意見陳述がありました。一人は中国語で、一人は一生けんめい練習した日本語で話されました。長岡県営住宅と高島市営住宅で暮しているお二人の話は、涙なしでは聞くことができませんでした。

平均年齢七十歳をこえた帰国者の多数の方が、不十分な支援のため、日本語がわからないまま、あるいは生活困窮のまま暮らさざるを得ません。

七月十四日、岡山地方裁判所で、中国残留孤児岡山原告団が国を相手にした裁判の第一回公判が開かれ、いなば泰子も傍聴したので報告します。

中国残留孤児 国家賠償訴訟 公判を傍聴して



「普通の日本人として人間らしく生きたい」という、あたりまえの願いが一日でも早く実現できるよう支援していきたいと思えます。

後日、意見陳述をした二人のうち、今岡さんにお話をうかがいました。

(左上写真 今岡さんに話を聞く稲葉と通訳してくださった孫さん)

家族写真などを見せてもらいながら二時間ほどの間に、目の前で亡くなり庭に埋葬されたお兄さんや、どこでどうなったのか分からない兄弟のこと、支えになってくれたお姉さんのこと、養父母への感謝の気持ちなどを聞きました。

軍の関係者は情報を持っていて早くに対応を取ったのに、地方にいた民間人は情報もなく放置されたのは国の責任。日本でまじめに働いてきた人の年金生活くらいができるようにするのは国の責任ではないかと裁判に訴えた気持を話されました。戦争は怖い、という言葉が印象に残りました。

みんなの声

参議院選挙を

終わって、励ましの声をたくさんいただきました。

残念だったけれど、共産党のいつてことは、やがて、分つてもらえると思います。

(長岡・Eさん)

悪い人がいないから好き、清潔で弱い者の味方だと感じるから、いつも応援しているん。

(北方・A子さん)

子どもを戦争にとられるのは

はいやだから、ずうっと応援していますよ。(今在家・B子さん)

ここ二、三年どんどん悪くなり、戦争前夜のよう。アメリカで民主党代表も改選を言つたし。

(津島本町・Yさん)

戦争はもつないと思つていたのに、共産党にがんばつてもうわなくては。(半田町・Sさん)

ありがとございました。ひきつづきがんばります。